

令和元年度 学力向上調査 報告

令和元年度

第2学年「東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果

教科	観点別								教科内容	
	話す・聞く・語聞		読む・書く・語書		語理・言語		読む			
国語	71.6	74.8	45.1	59.0	59.1	68.9	75.4	78.9	64.3	71.7
社会	46.8	48.5	55.2	61.5	37.4	40.9			47.2	50.9
数学	24	29.9	43.6	59.7	54.9	63.6			41.4	52.9
理科	29.8	43.5	54.9	60.1	42.4	47.3			41.9	49.3
英語	20.1	40.8	55.9	61.9	46.1	59.0			44.5	55.9

(平均正答率)

令和元年度

第3学年「全国学力調査・学習状況調査」「練馬区学力調査」結果

		豊浜中	練馬区	東京都	全国
国語	全体	71		74	72.8
数学	全体	59		62	59.8
英語	全体	56		59	56
社会	基礎	55.1	58.5		60
	活用	40.1	45.9		44.6
地理・歴史	基礎	44.2	55.8		59.3
	活用	44.7	46		47.6

(平均正答率)

具体的な授業改善策

【国語】

○話す・聞く：生徒が関心・意欲をもつ題材で単元を設定し、その力を育む。また、普段から自分の考えを発表する場面を設定する。

○書く：文章の中の自分の考えや気持ちについての根拠が書かれているかどうかを毎回振り返らせる。

○接続語、段落構成の工夫にも着目させる。

2年生ではワークシートを活用し、3年生では根拠や具体例を集め、文章の組み立てを考えて主張文・批評文等言語活動を行う。

○読む：文章をよく読んで、その工夫や効果について自分の考えをまとめ、交流するようにする。

○言語：漢字の成り立ち、部首字体、筆順の単元や辞書学習で漢字語彙の関心・意欲を引き出す。

【社会】

○一方的でなく、生徒が主体的に学習に参加できるような環境作りを構築していく。授業の中で考える場面を多くする。またグループ学習の際は、少人数でのグループを編成し、自分が発言する機会を多くする。

○授業冒頭で、前回の復習、まとめの段階で振り返りを行い知識の定着化を図る。

○身近な例や最近のニュースなどに関連させて、理解しやすい説明を心掛ける。

○語句カードなどの教材の工夫により、重要事項を覚えやすいようにする。

○振り返りシートなどのプリントを活用して、基礎的事項の理解や、資料を活用する力の育成を図る。

【数学】

○標準コースでは、基礎学力の差異から、小数・分数計算から、やり直す必要のある生徒もおり、全体的な定着に若干の難が生じている。小テストや毎時間の宿題の確認等をこまめに実施していく。学習意欲を高めるために、個々の学習課題に切り込んでいく。

○発展コースでは、発展問題や課題を随時提供し、個々の理解度によりさらに実力を伸ばすためレベルアップを図ったり、生徒同士が問題解法を確認し合ったりして、相互に助け補完するような時間を設けるようにする。

○問題練習をできるだけ多く取り入れる。

【理科】

○魅力ある授業展開を行うことで、集中した授業を作る。その為に、考えたいような課題の提示を行い、予想、討論、実験の繰り返しの中から、仮説を立て、真実に到達する一連の流れを持つ仮説実験授業を行う。

○お互いの意見の交換を少人数間で行うことで、対話的な授業展開を行う。

○問題演習を繰り返し行うことにより、自信をもってテストにのぞむことで、学習意欲を培わせていく。

○提出物の点検表を渡し、自分で提出物を管理出来るようにする。

【英語】

○授業内でフォニックスを適宜確認していく。音読の時間を多く取り入れる。

○ワークシートや小テスト、口頭で繰り返し復習することで、少しずつ知識の定着を図る。

○少人数クラスの人数および習熟度が均等し、お互いに教え合いながら理解を深めていけるようにする。

○発言しやすい・質問しやすい雰囲気を作る。ペア活動やグループ活動を多く取り入れ、教え合いの中で理解を深める。

【課題】

○年間指導計画に従い、各50分間の授業内で、それぞれ本時の目標を掲げ、それに向かって授業を進めているが、個への指導に係る時間が多くなっている。自ら進んで放課後補習や家庭学習に取り組み、学習内容を定着させるという意識が弱い。

○基礎基本が確実に定着していない。既習内容の再確認を行いながら個への指導を粘り強く実践し、生徒自身の変容を期待している。